

生活関連物資定期調査の結果について

生活関連物資14品目（石油製品4品目、農林水産物資10品目）について、12月2日～6日に価格・需給状況を調査しましたが、その結果については以下のとおりです。

1 価格動向

① 石油製品

(単位：円（消費税込み）)

品目名	規格・容量	店舗形態	今回調査の平均価格	前年同月の平均価格	対前年同月比(%)
ガソリン	レギュラー1ℓ、店頭現金売り	一般店舗	156	146	6.8
		セルフ	153	143	7.0
軽油	個人消費向け1ℓ、店頭現金売り	一般店舗	135	126	7.1
		セルフ	132	120	10.0
灯油	店頭価格、18ℓ	一般店舗	1,766	1,604	10.1
		セルフ	1,739	1,564	11.2
	配達価格、18ℓ	一般店舗	1,889	1,734	8.9
LPガス	一般家庭用、基本料金及び10m ³ を使用した料金	一般店舗	8,031	7,991	0.5

② 農林水産物資

品目名	規格	今回調査の平均価格	前年同月の平均価格	対前年同月比(%)
うるち米	県内産、精米、コシヒカリ、5kg	2,133	2,271	▲6.1
牛肉	ロース 100g	362	368	▲1.6
豚肉	ロース 100g	179	188	▲4.8
鶏肉	ブロイラー、もも肉、100g	104	107	▲2.8
まぐろ	赤身(生)、切り身(刺身用)、「めばち」又は「きはだ」100g	380	401	▲5.2
キャベツ	中サイズ1個	241	127	89.8
ほうれんそう	1束	177	150	18.0
ねぎ	中サイズ1本	80	51	56.9
だいこん	中サイズ1本	138	113	22.1
たまねぎ	中サイズ1個	65	41	58.5

2 結果の概要

【石油製品】

- ・前回調査（平成24年12月）と比較して、「ガソリン」が対前回は10円高（6.8%）「軽油」が9円高（7.1%）、「灯油」が162円高（1リットルあたり約9.0円）高（10.1%）、「LPガス」が40円高（0.5%）と、すべての品目で値上がりとなった。
- ・原油価格高騰や為替円安傾向の様相を呈しており、元売仕切価格も上昇基調となっていることから、海外原油市場の動向と併せ、石油製品の価格・需給動向を引き続き注視していく。

《参考》直近の価格動向（資源エネルギー庁調査の結果：本県平均）

○H25.11.25調査	：ガソリン（レギュラー）1リットル 155.0円	／灯油（店頭）18リットル 1,778円
○H25.12.2調査	：ガソリン（レギュラー）1リットル 155.7円	／灯油（店頭）18リットル 1,789円
○H25.12.9調査	：ガソリン（レギュラー）1リットル 156.0円	／灯油（店頭）18リットル 1,794円

【農林水産物資】

- ・「うるち米」が対前回は138円安（▲6.1%）、「牛肉」、「豚肉」、「鶏肉」は前回調査と比較して3円（▲2.8%）から9円安（▲4.8%）と値下がりした。「まぐろ」においては21円安（5.2%）と値下がりした。
- ・野菜は（「キャベツ」、「ほうれんそう」、「ねぎ」、「だいこん」、「たまねぎ」）は、前回調査と比較して24円（58.5%）から114円（89.8%）と値上がりとなった。

《参考》今回調査における野菜の出回り状況

キャベツ	：主に千葉県、愛知県産	ほうれんそう	：主に群馬県、茨城県産
ねぎ	：主に福島県、茨城県産	だいこん	：主に千葉県、神奈川県産
たまねぎ	：主に北海道産		

3 年末年始における価格・需給動向

上記調査と併せて、14の事業者（卸売市場、関係業界）を対象に生活関連物資の価格・需給の現況と年末年始における見通しについて調査を実施しましたが、その結果については以下のとおりです。

【石油製品】

- ・需要について、ガソリン・軽油の在庫は、年末年始の物流業界稼働復活や、更には製品輸出等により今後も堅調に推移するものと思われる。生産体制は順調に推移しており、年末年始にかけて在庫不足に陥るとは考え難い。灯油の在庫は、昨年よりも多い水準であり、石油各社の生産余力は十分なものと思われる。今後も着実に積み増しを進めるものと予想され、安定供給に支障をきたす恐れはないものと思われる。
- ・価格について、ガソリン・軽油は、原油価格の動向と為替変動、先物市場の動向により、価格が変動するが、冬場の需要期を目前に控え、元売各社の卸価格は徐々に上昇するものと思われる。灯油は、原油価格や為替、更には先物市場の上昇により、元売仕切価格も上昇する可能性が高く、寒気の強まる年末年始にかけて小売価格も上昇するものと思われる。LPガスは、オール電化住宅の普及等により需要は減少しているが、年末年始の価格については中東情勢の影響等からやや高めで推移しており、為替の円安傾向と相まって値上げ傾向。

【農林水産物資】

- ・「うるち米」は、震災後から比べると、H25年産米は低価格設定ではあるが動きは非常に鈍い状況となっている。年末年始の需要拡大の見通しは少なく価格に関しては現状維持で推移すると思われる。
- ・「牛肉」は、出荷頭数の減少傾向が続く中で年末需要が入り一段上げの相場展開となっている。「豚肉」は、12月の出荷頭数は前年を上回っているが、円安等による価格高により国産へシフトした経緯もあることから相場高。
- ・「まぐろ」は各産地とも、安定した入荷が見込めるためやや弱含みで推移。クリスマス以後は漁獲期から外れるため、漁獲減少傾向。国内物の水揚げは天候しだいであるが、輸入品の品薄から若干の高値が予想される。
- ・「キャベツ」は台風や低温の影響により小玉傾向で出荷量が減少しているが、12月中旬以降、出荷数量、価格ともに回復が見込まれる。「ほうれんそう」は台風や低温の影響から出荷数が少なく価格は平年より高めの予想。「ねぎ」は天候不順により若干の生育遅れがみられたが今後は順調に出回る見込み。「だいこん」は低温の影響などもあり小ぶりとなっているが、今後順調な出荷が見込まれる。「たまねぎ」は高温、干ばつおよび収穫期の豪雨などにより、大玉減少のため高めで推移する見通し。

【1、2の調査方法等について】

①調査方法

県内7地方振興局において、調査期間中に原則、調査店舗に出向き、当該店舗において表示価格の確認及び聞き取りにより価格を調査する。

②調査の時期：

年1回の調査とし、調査時期は12月とする。

③対象店舗数：

○「石油製品」については、調査店舗の内訳を下記のとおりとする。

ガソリン：一般店舗3、セルフスタンド2、軽油：一般店舗3、セルフスタンド2

灯油（店頭）：一般店舗3、セルフスタンド2、灯油（配達）：一般店舗5

LPガス：一般店舗5

○「農林水産物資」については、非定店舗35店舗（各地方振興局5店舗）を原則とする。